

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670100712		
法人名	医療法人 松岡会		
事業所名	山城グループホーム		
所在地	徳島市山城西3丁目19番地		
自己評価作成日	平成26年11月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、笑顔にあふれ明るい雰囲気の中で、家庭的な生活を送っています。家族様とのつながりを大切に、いつでも気軽に来所できる雰囲気作りを心掛けています。看護、医療、介護の面での連携はとてスムーズで、住み慣れた当グループホームでの最期を望まれる家族様も多く、スタッフ一同自信を持って取り組んでいます。又職員の勤務年数もみんなそれぞれに長く居心地の良い施設又人間関係の良さが表れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から入った場所に位置し、近隣には公園や公共施設等がある。日頃から、利用者と地域住民が交流を図ることができるよう、地域の行事や散歩へ出かけている。また、介護福祉士の実習生を受け入れ、将来的な人材育成に寄与するなどして社会的役割の発揮に努めている。管理者と職員は、密にコミュニケーションを図っており、良好な関係を築いている。職員の意見や気づきは、管理者が中心となって運営面やサービスの質の向上に反映するようにしている。同一法人の運営する医療機関と連携を図り、24時間の対応が可能な体制を構築している。また、終末期の支援にも積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に、理念を唱和し、理念の実践に向けて、日々取り組んでいる。	事業所では、“笑顔があふれる楽しい生活”を理念に掲げている。毎日のミーティング時に理念を唱和し、共有化を図りつつ意識付けを行い、日頃の支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練、文理の学園祭、学生の実習やボランティアの受け入れをし、地元の人々と交流する事に努めている。町内会に加入している。	事業所では、実習生やボランティアを受け入れている。同一法人の運営する他サービス事業所の利用者との交流もある。近隣の公園の散歩や、子どもたちとの交流などを支援している。利用者や職員で地域の行事へ出かけることもあるなど、地域との交流を図るように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者及び職員は地域の様々な研修、会合に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めています。実習生の受け入れやDSの利用者との交流も積極的に行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や年間行事計画を報告し、話し合いを行い、いろんな意見を出し合い、サービス向上につとめている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の取り組みや活動状況を伝えている。認知症サポーター講座やノロウイルス対策のDVDなどの時期に応じた課題について検討し合い、サービスの質の向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回ながいき課に出向き、顔馴染みの関係をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	直接、職員が市担当窓口に出向いて相談するようにしている。ノロウイルスの時期には、参考資料の相談に行き、情報や助言を得るなどして共働関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が、身体拘束の内容を把握し、身体拘束をしないケアをしています。	全職員で身体拘束の弊害について学習し合い、理解するようにしている。利用者とのコミュニケーションを大切に、見守りを中心とした支援に努めることで、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされることがないように、職員間どうしのコミュニケーションを図り、防止に努めている。虐待防止マニュアルを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用している入居者2名がおられ、職員一同制度について理解し周知徹底しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際は、利用者や家族に十分な説明を行ない理解納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム玄関に意見箱を設置し、利用者様からの意見・苦情があった場合、管理者・職員は、傾聴し、解決していくように努力している。	家族から出された意見や要望は、ていねいに聞き取りを行って対応している。対応の困難な意向については、代表者と相談するなどして速やかな対応を心がけている。また、玄関に意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングや勉強会を開き意見を交換し、向上に努めている。職員から意見や要望がある時には、その都度聞き、話し合いの機会を作っている。	職員のアイデアを年間行事に反映するなどして、利用者が楽しむことができるような計画を立案している。管理者と職員間のコミュニケーションは良く、つねに相談できる関係がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の意見や不満を聞きいれてくれる。常に代表者と職員が話し合いをもてる環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて研修を受け、法人内・外の研修もすすんで受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修生の受け入れ施設として、他の施設の方々と交流を深めたり研修会などの活動を通じて情報交換し、サービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者からの相談があった場合は、ゆっくり耳を傾け話をし、受け止めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時より家族様から困っている事・不安な事は親身になって聞き入れ、入所中も電話や面会時等に話し合い相談しています。いつでも受け入れる努力はしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、まず必要としていることを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から、昔のことわざや慣わしを教えていただいたり、楽しいときはいっしょに笑い支えあう関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りや誕生会の行事に、家族様も一緒に参加していただき共に楽しみ喜んでいただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	華道の先生をしていた時の友人が訪ねて来たり途切れない関係づくりに努めています	同一法人の運営する他サービス事業所を利用している友人や知人との交流を支援している。家族の協力を得たうえで、馴染みの美容院へ出かけたり、お墓参りをしたりして、外出の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	だんらんの場でのその人それぞれの役割・居場所作りに心掛け、利用者様同士が支えあえる関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、その後利用者様の紹介などの問い合わせを頂いたり、断ち切らない付き合いを大切にしています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	偏食の利用者様にかんしては、特別なメニューを作っています。困難な場合には、本人と話し合い検討しています。病院受診時にも職員が付き添っています。	日頃の利用者との関わりを通じて、一人ひとりの思いや意向を把握するよう努め、その人らしい暮らしの実現に向けた支援を行っている。意思の表出が困難な利用者には、家族と話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、個人個人の生活歴を大切に、毎朝お化粧をする人に支援し、好みに応じて、食後コーヒーをだしたり、生姜湯を出しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態や生活リズムに合わせた支援をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ケアカンファレンスを開催し、意見やアイデアを反映した介護計画を作成しています。家族様から意見・要望を聞き、介護計画書に反映している。	毎月、カンファレンスを開催し、関係者間で話し合っている。利用者一人ひとりがその人らしい暮らしを継続して送ることができるような介護計画の作成に努めている。3か月に1回の見直しのほか、一人ひとりの状態変化に応じて変更するなど、柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等を個別記録・申し送りノートに分かりやすく記入し、介護計画の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスと併設しているため、マッサージ器・カラオケ・慰問・誕生会等その時々に応じて柔軟な支援をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議においては、民生委員や地域の交番の警察官・包括センターの方に来て頂き、利用者様と世間話等をして認知症に対する理解・協力を深めています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	忙しい家族様に対しては、職員が病院受診に同行し、受診結果を家族様に報告して本人及び家族様の希望を支援しています。	多くの利用者が同一法人の運営する医療機関の医師を主治医としている。家族の同行を基本としているが、困難なときには職員が同行するようにしている。受診結果は家族にも伝達し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝常勤看護師長に、状態報告をしています。褥瘡処置・点滴・受診時の付き添い等の支援をしている。夕方にも利用者の健康状態の様子観察をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した時には、職員交代の様子を見に行き主事医と情報交換や相談につとめています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化がある度に、医師・看護師・職員全体で話し合い、状態を家族に報告しています。今後の変化に備えて検討や支援に取り組んでいます。	事業所では、看取りの指針を整備している。契約時の段階で、終末期の意向を確認している。また、看取りに関する説明を行い、同意を得たうえで対応している。かかりつけ医や関係者間で対応方針を共有し、家族の意向に添うことができるよう連携を図りつつチームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救命救急講習を毎年実施しています。緊急時マニュアルを作成し、周知徹底を図っています。24時間院長及び看護師に連絡が取れる状態になっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、民生委員に参加して頂き協力を得ています。避難場所の地図を廊下に掲載し、常に目に付くようにしています。	年2回、消防署の指導を得て避難訓練を行っている。飲料水や食料品を備蓄したり、災害用備品を整備したりしている。廊下には、避難場所や避難経路の地図を掲示している。また、民生委員にも協力を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の自尊心を尊重するような声かけをおこなっています。	おむつ交換やトイレ誘導時には、声かけなどの対応に留意し、一人ひとりの自尊心を傷つけることのないよう努めている。名前を呼ぶときには、希望する方のみ愛称で呼ぶなどの配慮が見受けられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にあわせて声かけをし、決めた事を押し付けるような事はせず、一人ひとりの利用者が自分で決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースにそって見守りながら生活を送り、体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらっています。その他職員によるカット等を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在一緒に食事の準備が出来る入居者がいない為、食後のお盆拭きやおしぼりを巻いて頂いたり出来る事をしてもらっている	食事は業者に委託しているが、主食や味噌汁は事業所で調理している。また、手作りのおやつを提供することもある。利用者と職員で和やかに会話を楽しみつつ、食事時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックし、職員が情報を共有しています。発熱者がいる場合、特に水分補給に気をつけています。食事量の少ない方には、院長の指示により、栄養補助食品を摂ってもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、口腔ケアを実施しています。就寝前には、義歯の洗浄を行っています。希望者には、歯科受診に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導をし、トイレでの排泄を促しています。利用者のそれぞれの排泄パターンを把握して、トイレ誘導をしています。	利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりの身体状況に応じて、自立に向けたさりげないトイレ誘導を支援している。利用者の誇りを損なうことのないような声かけに留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行訓練と適度な運動を実施し、自然排便を促しています。希望の利用者には、毎朝ヤクルトを配達してもらい、飲んで頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応、入浴日は決めています。入浴希望がある利用者については、いつでも入浴できるように支援し入浴拒否をされる利用者に対しては、声かけの工夫等で対応しています。	事業所として入浴日を定めてはいるが、利用者の希望に応じて対応することができるようにしている。入浴を拒む方には、日程を変えたり、足浴や清拭で対応したりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、1日の生活リズム作りをして、ゆっくり休息、安眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケース毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には、きちんと本人に渡し服薬確認および服薬介助をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった楽しみや、役割を見つけて支援しています。新聞を希望する人には、配達してもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	心身の活性に外食・買い物・散歩等に出かけています。馴染みの喫茶店等に車椅子等で出かけ、近所の風景を楽しんでいます。	利用者と職員で近隣の公園を散歩したり、季節の花を見に出かけたりしている。雛祭りや喫茶店にも立ち寄るなどして、戸外で気持ちよく過ごすことができるよう、家族の協力も得つつ外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っている人と事務所で管理している人といいます。パン屋が来た時に自分で好きなパンを選び、購入しています。また日用品等は、買い物に出かけています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば、事業所の携帯電話を使用し、人目をきせず話をして頂いています。手紙等も出せる様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい音楽を流したり、廊下には季節感のある利用者の写真等を掲示し、家具の配置は一緒に考え工夫しています。中庭の月下美人の花が咲くのを楽しみにしています。	廊下の壁面には、季節の飾り付けや手作りの小物を飾っており、暖かい雰囲気がある。心地良い音楽を流しており、ゆったりとした雰囲気の共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に椅子を置き、気のあった利用者同士で戸外を眺めたり、たばこを吸っている方には、場所と時間を決めて職員付き添いのもと、喫煙しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子など使い慣れた物を置き目覚まし時計・テレビ等を持ってきてもらっています。家族の写真等を飾っています	居室の入り口には、個性豊かな飾り付けで装飾した表札を掛けるなどしており、優しい雰囲気を感じることができる。居室に利用者の馴染みの家具を持ち込んでもらっており、落ち着いて過ごすことができるよう環境整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・風呂場に手すりを取り付け、安全確保と自立への配慮をしています。台所の流し台の高さも利用者の使いやすい高さになっています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西棟 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に、理念を唱和し、理念の実践に向けて、日々取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練、文理の学園祭、学生の実習やボランティアの受け入れをし、地元の人々と交流する事に努めている。町内会に加入している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者及び職員は地域の様々な研修、会合に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めています。実習生の受け入れやDSの利用者との交流も積極的に行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や年間行事計画を報告し、話し合いを行い、いろんな意見を出し合い、サービス向上につとめている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回ながいき課に出向き、顔馴染みの関係をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が、身体拘束の内容を把握し、身体拘束をしないケアをしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされることがないように、職員間どうしのコミュニケーションを図り、防止に努めている。虐待防止マニュアルを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西棟 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用している入居者2名がおられ、職員一同制度について理解し周知徹底しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際は、利用者や家族に十分な説明を行ない理解納得をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム玄関に意見箱を設置し、利用者様からの意見・苦情があった場合、管理者・職員は、傾聴し、解決していくように努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングや勉強会を開き意見を交換し、向上に努めている。職員から意見や要望がある時には、その都度聞き、話し合いの機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の意見や不満を聞きいれてくれる。常に代表者と職員が話し合いをもてる環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて研修を受け、法人内・外の研修もすすんで受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修生の受け入れ施設として、他の施設の方々と交流を深めたり研修会などの活動を通じて情報交換し、サービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	西棟	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者からの相談があった場合は、ゆっくり耳を傾け話し、受け止めています。					
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時より家族様から困っている事・不安な事は親身になって聞き入れ、入所中も電話や面会時等に話し合い相談しています。いつでも受け入れる努力はしています。					
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、まず必要としていることを見極め対応に努めている。					
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から、昔のことわざや慣わしを教えてくださいだったり、楽しいときはいっしょに笑い支えあう関係を築いています。					
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りや誕生会の行事に、家族様も一緒に参加していただき共に楽しみ喜んでいただいています。					
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	子供の頃お世話をしていた方や、近所の子供等が訪ねてきて、食事に行ったり行事に参加していただき途切れない、関係づくりに努めています					
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	だんらんの場でのその人それぞれの役割・居場所作り心掛け、利用者様同士が支えあえる関係づくりに努めています。					

自己	外部	項目	自己評価	西棟	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、その後利用者様の紹介などの問い合わせを頂いたり、断ち切らない付き合いを大切にしています。					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	偏食の利用者様にかんしては、特別なメニューを作っています。困難な場合には、本人と話し合い検討しています。病院受診時にも職員が付き添っています。					
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、個人個人の生活歴を大切に、毎朝お化粧をする人に支援し、好みに応じて、食後コーヒーをだしたり、生姜湯を出しています。					
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態や生活リズムに合わせた支援をしています。					
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ケアカンファレンスを開催し、意見やアイデアを反映した介護計画を作成しています。家族様から意見・要望を聞き、介護計画書に反映している。					
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等を個別記録・申し送りノートに分かりやすく記入し、介護計画の見直しに活かしています					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスと併設しているため、マッサージ器・カラオケ・慰問・誕生会等その時々に応じて柔軟な支援をしています					

自己	外部	項目	自己評価	西棟	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		運営推進会議においては、民生委員や地域の交番の警察官・包括センターの方に来て頂き、利用者様と世間話等をして認知症に対する理解・協力を深めています				
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		忙しい家族様に対しては、職員が病院受診に同行し、受診結果を家族様に報告して本人及び家族様の希望を支援しています。				
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		毎朝常勤看護師長に、状態報告をしています。褥瘡処置・点滴・受診時の付き添い等の支援をしている。夕方にも利用者の健康状態の様子観察をしている。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		利用者様が入院した時には、職員交代で様子を見に行き主事医と情報交換や相談につとめています。				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		状態変化がある度に、医師・看護師・職員全体で話し合い、状態を家族に報告しています。今後の変化に備えて検討や支援に取り組んでいます。				
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		消防署の協力を得て、救命救急講習を毎年実施しています。緊急時マニュアルを作成し、周知徹底を図っています。24時間院長及び看護師に連絡が取れる状態になっています。				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		年2回避難訓練を実施し、民生委員に参加して頂き協力を得ています。避難場所の地図を廊下に掲載し、常に目に付くようにしています。				

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西棟 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の自尊心を尊重するような声かけをおこなっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にあわせて声かけをし、決めた事を押し付けるような事はせず、一人ひとりの利用者が自分で決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースにそって見守りながら生活を送り、体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらっています。その他職員によるカット等を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在一緒に食事の準備が出来る入居者がいない為、食後のお盆拭きやおしぼりを巻いて頂いたり出来る事をしてもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックし、職員が情報を共有しています。発熱者がいる場合、特に水分補給に気をつけています。食事量の少ない方には、院長の指示により、栄養補助食品を摂ってもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、口腔ケアを実施しています。就寝前には、義歯の洗浄を行っています。希望者には、歯科受診に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西棟 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導をし、トイレでの排泄を促しています。利用者のそれぞれの排泄パターンを把握して、トイレ誘導をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行訓練と適度な運動を実施し、自然排便を促しています。希望の利用者には、毎朝ヤクルトを配達してもらい、飲んで頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応、入浴日は決めています。入浴希望がある利用者については、いつでも入浴できるように支援し入浴拒否をされる利用者に対しては、声かけの工夫等で対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、1日の生活リズム作りをして、ゆっくり休息、安眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケース毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には、きちんと本人に渡し服薬確認および服薬介助をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった楽しみや、役割を見つけて支援しています。新聞を希望する人には、配達してもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	心身の活性に外食・買い物・散歩等に出かけています。馴染みの喫茶店等に車椅子等で出かけ、近所の風景を楽しんでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	西棟	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		自分でお金を持っている人と事務所で管理している人といいます。パン屋が来た時に自分で好きなパンを選び、購入しています。また日用品等は、買い物に出かけています。				
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		自分の携帯電話を持っている方に使い方を教えて自室でゆっくり家族と話しができるよう、支援しています。				
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		心地よい音楽を流したり、廊下には季節感のある利用者の写真等を掲示し、家具の配置は一緒に考え工夫しています。中庭の月下美人の花が咲くのを楽しみにしています。				
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		窓際に椅子を置き、気のあった利用者同士で戸外を眺めたりしながら時には、おやつも摂取してもらっています。				
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		タンスや椅子など使い慣れた物を置き目覚まし時計・テレビ・冷蔵庫等を持ってきてもらっています。家族の写真等を置き、くつろげる工夫をしています。				
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		トイレ・廊下・風呂場に手すりを取り付け、安全確保と自立への配慮をしています。台所の流し台の高さも利用者の使いやすい高さになっています。				